

令和6年度 中央区立阪本小学校 外部評価報告書

外部評価委員：安西 暉之、今野 克彦、江本 良雄、石橋 千佳、本橋 慶子、田村 俊夫、
山田 和雄、坂間 政利、伊藤 洋平、柴 俊明

報告書作成者：細谷 美明（第三者評価委員）

評価時期 令和7年3月

1 重点目標の評価

重点目標1(自ら考え共に学ぶ子どもの育成)について

保護者、児童ともにアンケートでは達成率が90%を超え、目標はおおむね達成されたとみることができる。教員の授業を参観する限り、個人差はあるが児童の意欲を高める授業を工夫しており、アンケート結果を裏付けるものと言える。経験年数が少ない教員の割合が高くなっている関係で、児童一人一人に対する指導・支援の深さに物足りなさを感じる教員はいるが、意欲の高い教員が多くいることは事実である。校内における研究・研修を計画的に進め研鑽に励むことを期待したい。

重点目標2(暖かい人間関係を育む教育の充実)について

こちらも保護者、児童ともにアンケートでは達成率が90%を超え、目標はおおむね達成されたとみることができる。保護者アンケートの結果であいさつに関し「改善を要する」が14%あったが、校内では児童たちが教職員や外来者に対し元気にあいさつをする姿をよく見かけたので、校外や家庭内での問題とも受け取れる。ただ、「学校内で困ったことを信頼できる大人に相談できるか」の「できない・あまりできない」の回答が14%あった。学校は、児童一人一人との対話もいろいろな形で展開しているものの成果が出ないことに苦慮していたが、学級によってはマイナス回答の少ないところもあり、その指導を参考にするのも一つの方法であろう。

重点目標3(地域の特性を生かした特色ある教育活動の推進)について

こちらも保護者、児童ともにアンケートでは達成率が90%を超え、目標はおおむね達成されたとみることができる。特に、本校の特色である邦楽や日本舞踊など伝統文化教育や金融教育・法教育が保護者にも十分理解されており、そのことがアンケート結果に表れている。こうした地域の協力を得られる体験活動は、分析・精査しながら今後も本校の中核的な活動にしていくべきであろう。あえて言えば、体験活動後に行う児童の振り返り活動に対し教師の助言活動をさらに重点化する「ポートフォリオ評価」を取り入れていくことが児童が自分に自信をもち教員への信頼感を高める一助になるものと考えている。

2 今後の改善に向けた意見

保護者アンケートの自由記述を読むと、入学当初登校しぶりをしていた児童が学校の指導で「学校が楽しい」と大きく変容する記述が多い。これは、教員だけでなく職員全体が児童一人一人に対する授業をはじめとした様々な教育活動と愛情あふれる指導・支援の賜物とみることができる。今後は、上述のポートフォリオ評価のような児童の思いを教育のプロとして助言・励ましのできる教員集団、教育組織たる学校となるよう引き続き努力を払ってほしい。

3 その他の意見

特になし。